「見てきました　漂着した軽石」　　（２１．１２）

平塚市博物館に展示されています。『福徳岡ノ場』から平塚海岸に漂着した軽石です。

今から３０年前、平塚の「虹ケ浜」の海岸に打ち上げられていた軽石です。
軽石についての解説によると、「色：灰色がかっている。黒い溶岩（玄武岩）由来の岩石の一部が含まれている。表面にサンゴが付着しているものがある」

玄武岩の一部が含まれているのは、地下のマグマの噴火によるものと判断できます。

噴火地点が小笠原諸島、日本から約１３００ｋｍ、海流に乗り漂いながら、南の温かい海洋を軽石が漂流を続け、サンゴが付着したようです。

角が取れ丸みを帯びているのは、漂流する間、もろい軽石は波に洗われ、軽石同士がぶつかり合いながら角が削られたと思われます。

あわせて、化学分析の結果により、『福徳岡ノ場』の噴火によるものであることが判明したそうです。

現在、大量の軽石が沖縄や伊豆諸島に漂着している場面、連日報道されています。餌と間違えたと思われる軽石が詰まった魚の内臓。軽石で埋まった海岸は観光資源の障害になる。漁港の出入り口には、オイルフェンスを設置し港への流入を減少させる策がとられていますが、漁船の出入に困難をきたす。等々の甚大な被害が伝えられます。

軽石は通気性や排水性に富んでいるので、産業資源に活用できないか検討されているようですが、火山性の有害物質であるヒ素やカドミウムなどが含まれていないかが分析され、人体に無害であることが証明されれば、農業、建築資材に活用の道が開けそうです。

自然現象とは言え、平塚の海岸が軽石に埋め込まれることを想像したくはありません。